

広島大学短期交換留学 (HUSA) プログラム 派遣留学報告書

	記入日 平成 26年 3月 25日			
所属学部・研究科	総合科学部 2年次 (留学開始時点)			
留学先大学	ハンブルク大学 (国名: ドイツ)			
所属学部・学科等名	日本学科			
在籍身分	交換留学生			
留学期間	平成 25年 09月 30日 ~ 平成 26年 03月 20日			
1. 渡航について				
ビザについて	ビザの種類: 学生ビザ			
	ビザ申請先: Hamburg Welcome Center			
	取得方法, 提出書類: パスポート用サイズの顔写真一枚、パスポート、ハンブルク市の住民登録証、ドイツ総領事館または大使館発行の保護者の経済援助証明、学生寮の賃貸契約書			
	※ビザ発行費用: 100 ユーロ			
	手続きに要した日数: 申請してから取得まで1ヶ月程度			
その他必要な事前手続き	保護者の経済援助証明は、ドイツ総領事館または大使館で発行する必要があるため、渡航前に準備しておく必要がある。			
出国年月日	平成 25年 09月 29日			
経路	広島空港→成田空港→ウィーン空港(オーストリア)→ハンブルク空港			
現地での出迎え	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (・ 大学関係者 ・その他) <input type="checkbox"/> 無			
到着後オリエンテーションの実施状況・期間・内容	留学生向けのオリエンテーションなどはなかったが、10月の第1週に日本学科で新入生向けのガイダンスが行われていた。特に出席が必要なものはなかった。			
帰国年月日	平成 26年 03月 21日			
経路	ハンブルク空港→フランクフルト空港→成田空港→広島空港			
2. 留学経費について				
所要経費	総額	約 100 万～	円	
	内訳	渡航費	約 210,000	円
		保険料	約 96,000	円
		教科書代(学費)	約 33,000	円
		宿舍費	約 32,000	円
		食費	約 8,000	円
		その他 (費)		円
(費)		円		
(費)		円		
3. 授業について				
2013年 冬学期	10月 01日 ~ 03月 31日			

年 学期	月 日 ~ 月 日
年 学期	月 日 ~ 月 日
年 学期	月 日 ~ 月 日
授業の概要について (カリキュラム, プログラム等)	日本学科の授業(新聞講読と独文和訳)と、留学生向けのドイツ語の授業(発音法や文法、会話)を受講した。
単位互換希望の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 ※有の場合, 所属学部支援室へ提出の単位認定申請書類のコピーを添付すること
学術面に関する後輩へのアドバイス	最初は聞くこともままならず大変なことも多いと思うが, 自分の考えや意見をしっかり伝えることが大切であると思う。また, 留学生向けのドイツ語の授業(Deutsch als Fremdsprache)は集中講義なども開講されているので, 大学のHPなどでチェックするとよい。
4. 生活等について	
(1) 留学先の住居について	
住居の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 大学の寮 <input type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> ホームステイ <input type="checkbox"/> その他()
住居の広さ	約 m ² 同居人の有無 <input checked="" type="checkbox"/> 有(3人) <input type="checkbox"/> 無
住居に附属する設備	<input checked="" type="checkbox"/> 電気 <input type="checkbox"/> ガス <input checked="" type="checkbox"/> 水道 <input checked="" type="checkbox"/> 給湯 <input checked="" type="checkbox"/> シャワー <input type="checkbox"/> 風呂 <input checked="" type="checkbox"/> 水洗便所 <input checked="" type="checkbox"/> 暖房 <input type="checkbox"/> 冷房 <input checked="" type="checkbox"/> 台所 <input type="checkbox"/> 食堂 <input type="checkbox"/> 固定電話 <input checked="" type="checkbox"/> インターネット <input type="checkbox"/> その他()
住居費	1ヶ月当たり 232 ユーロ (現地通貨) 約 32,000 円
住居を決定した方法	<input checked="" type="checkbox"/> 留学先大学の紹介 <input type="checkbox"/> 友人・知人の紹介 <input type="checkbox"/> 不動産業者 <input type="checkbox"/> その他()
留学先での住居全般に関するアドバイス	私が住んでいた学生寮は, 3, 4人が一つのフロアで生活していた。部屋は一人ずつ分かれていて, キッチン, トイレ, シャワーは共用であった。私のフロアは掃除当番などはなかったが, 共用する場所は気づいた人が掃除をしたり, ゴミ出しをするようにしていた。
(2) 医療について	
1日以上入院を要する 病気・怪我等を	<input type="checkbox"/> した <input checked="" type="checkbox"/> しなかった
入院した場合	により 日入院
留学に当たり保険を	<input checked="" type="checkbox"/> 掛けた <input type="checkbox"/> 掛けなかった
掛けた場合	<input checked="" type="checkbox"/> 日本 <input checked="" type="checkbox"/> 留学先国 <input type="checkbox"/> その他()
掛け金は	月額 (日本) 約10500円 ・(ドイツ) 約3600円 補償額 死亡 10000000 円, 入院1日 円 その他()
留学前後での予防接種 の必要の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
有の場合, その種類, 回数, 費用, 受けた医療機関名	
日常的な健康について 不安が	<input type="checkbox"/> あった <input checked="" type="checkbox"/> なかった あった場合その理由:
留学先国の医療事情 (日本と比較して)	医療機関にかかったり, 現地の薬を服用することもなかったが, 薬局はいいたるところにあり, 営業時間も比較的長めだったと思う。

留学先での健康管理, 衛生面について特に注意すべきこと	ドイツは硬水のため、最初は慣れなかった。水道水は飲むことはできるが、お腹を壊す人もいたので、できるだけ飲料水を買うのが確実。また、生鮮食品も日本とは違って生で食べられるものとそうでないもの(卵など)があるので注意した方がよい。	
(3) 危険を感じた地域, 状況		
夜遅い時間帯になると、ハンブルク中央駅付近、地下鉄の入り口付近などには泥酔している人や柄の悪い人がいるなど雰囲気はよいものではなかった。		
(4) その他生活等に関して参考となる事項		
毎週日曜日と祝日、クリスマスや年末、新年などの休暇の時期はスーパーマーケットやデパートなど、ほとんどの店が閉まってしまう。特に週末は買い物をしそびれないようにした方がよい。また、コンビニのような24時間営業のお店はない。飲食店や中央駅周辺をのぞき、遅くとも21:00-22:00までには閉店するところがほとんどである。		
5. 帰国後の進路について		
卒業予定年月	平成 28年 3月	(当初の卒業予定年月 平成 28年 3月)
卒業が遅れる見込みの場合, その理由	<input type="checkbox"/> 4年次に留学したため <input type="checkbox"/> 単位不足のため <input type="checkbox"/> 新卒で卒業するため <input type="checkbox"/> その他(具体的に)	
現在の状況および今後の予定・進路等	学部3年生に在籍中で、単位互換を申請したため今のところ卒業が遅れる予定はない。	
就職活動や留学前の単位取得, 教育実習等についての工夫		
6. 留学準備, 留学中に役立った書籍, ウェブサイト等		
書籍, サイト名	詳細(出版社, URL等)	コメント
TRAVEL DAYS ドイツ	昭文社	地図つきでわかりやすい。
7. 自由記述(後輩へのアドバイス等)		
到着してからの一ヶ月間は、VISA取得や銀行口座開設、住民登録、学籍登録、保険加入などさまざまな手続きで忙しくなると思う。特に役所は新学期の時期に混み合っており、VISAや住民票の取得をするのに、予約が必要なこともあった。必要な書類のなどは早めの準備が大切であると思う。日本学科の学生がチューターとしてサポートしてくれるので、わからないことなどはしっかり聞いたほうが確実である。		

学習の概要に関するレポート

私は、2013年9月から2014年3月まで広島大学短期交換留学（HUSA）プログラムでドイツのハンブルク大学に交換留学生として留学しました。HUSAの制度には、単位互換制度というものがあります。卒業を遅らせたくない人にはこの制度はとてありがたく、大きな利点であると考えます。また、JASSOの奨学金支援制度を利用できたことなどから、金銭面や安全面において大きな心配もなく留学生活を終えることができました。

留学先のハンブルク大学では、留学生を対象としたドイツ語の授業（Deutsch als Fremdsprache：外国語としてのドイツ語、以下DaF）と、日本学科が開講する授業などに参加しました。DaFの授業は、すべてドイツ人の先生によってドイツ語で行われ、発音学や文法、会話練習などの授業を履修しました。発音学では、基礎から発音を磨き、会話演習などを通して他国からの留学生との交流を深めることができました。文法学習においては読むこと、話すことを通してより実践的なドイツ語学習ができたと思います。最初は先生の言っていることを聞くのもままならないうえに、当たり前のように複雑な文法用語を多用されて苦勞しました。しかし、少人数の授業では発言機会が多く、自分の意見を伝える機会が頻繁に与えられました。日本人の感覚では、間違っただけを話すのはよくないと思うことが多いと思いますが、ほかの国からの留学生は、文法が多少おかしくても積極的にどんどん発言していました。先生だけでなく、友達にも「あなたはどう思うか?」「どうしてそう思うか?」という質問はよく投げかけられました。間違いを恐れず、自分がどう思っているかを伝えるということは一見当たり前のように思いますが、いかに大切に再認識できたと思います。

日本学科の授業では、日本人の先生による授業で、新聞購読と独文和訳という授業を日本学科の学生と一緒に受講しました。新聞購読では、朝日新聞の社説をドイツ人学生とペアになって独訳しその内容についてディスカッションを行い、独文和訳では、ドイツ語で書かれた文学作品を和訳しました。授業以外でも、タンデム（お互いの母国語を教えあうこと）を行い、現地の学生と交流をはかるとともに、ドイツ語のスキルの向上をはかれました。そのほか、ハンブルク大学内の図書館や、ハンブルク市立図書館は蔵書数も多く、快適な学習環境だと思っているので、よく利用していました。

語学力の向上には、とにかく積極的に話すことが重要です。授業やタンデムの中だけでなく、大学のカフェ、イベントやパーティーなどで多くの人とコミュニケーションをとる機会はたくさんあります。日本ではなかなかできない経験だと思っているので、この学ぶ機会を逃さないことが大切です。私自身、現地の人との交流によって価値観が変わり、また視野も大きく広がった半年間だと思っています。



生活の概要に関するレポート

現地では、ハンブルク大学の日本学科の日本人の先生が世話人をしてくださり、授業の履修方法などについてお聞きすることができました。また、日本学科の学生チューターとしてついてくれて、住民登録や保険加入、銀行口座の開設、学生ビザの申請、学生登録などの手続きをサポートしてくれたおかげで、さまざまな手続きをスムーズに進めることができました。しかし、渡航前の情報があまり多くなかったため、現地についてからは少しばたばたしていました。特にビザの申請にはいくつもの書類の準備が必要で、不備なくそろえなければビザの取得が遅れてしまいます。特に注意しなければならないのは、保護者の経済援助証明です。これは日本の銀行口座発行のものでは受理されず、ドイツ総領事館または大使館で発行されたものではないといけませんので、渡航前に大使館か総領事館に出向いて準備しておく必要があります。

私が住んでいた学生寮は、男女関係なく、3～4人で一つのフロアを共用し、生活していました。学生寮の管理人は午前中の2時間ほどしか事務所におらず、何かあったときはすぐ連絡がつかないこともあったので大変でした。部屋は一人ずつ分かれていて、キッチン、トイレ、シャワーは共用で使っていました。私のフロアは掃除当番などはありませんでしたが、共用する場所は気づいた人が掃除をしたり、ゴミ出しをするようにしていました。汚く使う人がいたり、後片付けを怠る人もいましたが、そういうときは注意メモを残したり、話し合いを設けて解決していました。私のフロアは、住居者の入れ替わりが多かったですが、主にはドイツ人やその他の国からきた留学生が住んでおり、ドイツ語や英語でコミュニケーションをとりました。最初は、不自由なドイツ語で意思の疎通をとることが大変でしたが、ドイツ人のルームメイトがフォローしてくれながらお互いの国について話したりすることはとても楽しかったです。また、ヨーロッパということもあり、大学や学生寮、旅行先などいろいろな場面で様々な文化圏を持つ人々と交流を深めることができたのは、貴重な経験となりました。

ハンブルクは大きな都市で、公共交通機関も非常に充実しています。また、学生は定期代がとても安いので週末には友人たちと息抜きに遠出をしていました。街の中心部にも、美術館や音楽劇場、デパートなど様々な施設がそろっているため授業後に寄って帰ることもできます。油断は禁物ですが、治安もそれほど悪くなく、危険を感じたことはほとんどありませんでした。しかし、頻繁にデモが行われる地域や、夜になると泥酔者などが集まる駅の周辺など、一人で歩かないほうがいい場所もありました。ハンブルクにはアジア人もたくさん暮らしていたため、差別的なものはほとんど感じませんでした。ほとんどの人は優しく声をかけてくれたり、ドイツ語でうまく伝わらない場合は英語に切り替えてくれたりして、生活の中で不自由することはほとんどなく、快適に過ごすことができました。

